

公益財団法人 松園尚己記念財団

My graduation 2022

北川颯人

京都大学大学院工学研究科マイクロエンジニアリング専攻 1年

京都大学 工学部 物理工学科卒

どこを切り取っても、無駄な時間はない4年間でした。常に仲間や環境に恵まれた学生生活で、様々なことに挑戦しました。

浪人の末に勝ち取った志望校での大学生活が始まると、私は、「大学生活で、今後の糧となるような経験を積まなければ」と漠然とした焦りを感じていました。加入した学祭運営サークルで、自らまとめ役に立候補したのもその焦りからであったと感じます。このサークルは、主催する学祭の規模に対し組織の人数が少なく、一人当たりの仕事量が膨大でした。よって、たった4日の本番の為に1年を費やす、という生活を2年間送りました。この中で、終わりの見えない仕事量に押しつぶされそうになった時は何度もあります。組織のまとめ役として、自分の至らなさを感じた場面は今でも忘れられません。そんな時、支えてくれたのはサークルの仲間でした。私たちは、好きなことも学ぶ内容も価値観も違うものの、本音で語り合い、支え合いながら、2年間を過ごしました。彼らと苦勞を分かち合った日々と、共に作り上げた学祭は、私にとってかけがえのない財産です。結局、「経験を徳たい」と加入したサークルで徳た一番大事なものは、仲間と、彼らと過ごした時間でした。人間関係が希薄になりやすい大学において、このような仲間に出会えたのは幸運だったと思います。

サークルを引退した後、3回生初旬ごろから、新型コロナウイルスの流行の影響で社会が一変しました。思うように外出ができない状況で、私は1,2回生で注力できなかった勉学に時間を割きました。また、自分の好きなこと、例えばバイク、電子工作、プログラミングなどを始めました。これらの趣味は、工学徒の私が座学で習う知識の実践でもありました。自分の為に時間を費やした3回生が終わると、4回生では大学院入試の受験勉強があり、そのあとは、研究一色でした。研究テーマは、3回生のころ始めた趣味に類似するものを選択しました。金属積層造形(金属3Dプリンタ)に関する本研究においては、私が3回生のころに趣味で習得した知識を発揮することができました。未熟な私には知らない・わからないことが数多くありましたが、先生方のご指導の下、卒業研究を終え、大学を卒業することができました。

そして、現在私は、大学院にて、学部の時と同テーマの研究に取り組んでいます。本研究が目的とするところを達成できれば、金属 3D プリンタのさらに広い産業導入に貢献することができます。成果をあげれば特許を取ったり、実用化されたりする可能性があることは、工学の領域での研究を行う上での面白味だと感じています。また、自分の研究とは別に、工場自動化に関する産学連携プロジェクトにも参加しています。このプロジェクトは、複数の大学と複数の企業で共同して一つのシステム開発に取り組んでいます。他大学メンバーの技術や能力の高さに刺激を受けつつも、主体的にプロジェクトに関与している実感があるため、研究との両輪で忙しくともやりがいのある毎日を送っています。

大学院修了後は、私は技術者として働きたいと考えています。具体的には、日本が世界でより存在感を高められる未来に対し、積極的に貢献できる技術者を目指しています。この目標は、文字に起こした私でさえ、少し大それた夢にも思えます。しかし、貴財団をはじめ多くの方々に支えていただき、恵まれた環境に居た私が、このように大きく夢を語ることは、意味があることだと信じています。その為に、今は勉学・研究に集中し、ゆくゆくは技術という形で、育ててくれた社会に恩返しができるかと考えています。

4 年間、サークルであれ、勉学であれ、趣味であれ、全て全力で取り組んできました。残りの 2 年間も、変わらず努力を続け、大学院修了時に「頑張った」と胸を張れる日々を過ごそうと思います。